

南品川の寺社をたずね、 智恵子の碑にお参りして鮫洲八幡神社へ



さくら見どころ
● トイレ

※このマップはケーブルテレビしながわ
しながわ楽ビジョン「お出かけ情報」で放映された情報をマップにしています。



しながわ観光協会
〒141-0033 品川区西品川 1-28-3 品川区立中小企業センター 4F
Tel : 03-5751-7600 Fax : 03-5751-7699
しながわ瓦版 : <http://www.sinakan.jp>

南品川の寺社をたずね、 智恵子の碑にお参りして鮫洲八幡神社へ

新馬場駅の北口を出たら、まずはこの周辺の鎮守様である荏原神社にお参りしよう。目黒川を渡って、王貞治選手ゆかりのホームラン地蔵のある海徳寺へ。昔と変わらぬ道幅の東海道を少し歩くと立派な松が目をひく街道松の広場に到着。東海道を右折するとお寺の多い南馬場通り。第一京浜国道を渡って、並木が美しいゼームス坂をのぼると、高村智恵子の碑がある。ここは彼女が最期の時を過ごした地。再び東海道に戻り、大きなお地蔵様のある品川寺、かまどの神様として信仰を集める海雲寺、さらに南下して鮫洲八幡神社へ。旧東海道の道筋には、おいしい和菓子屋さんが多い。(所要時間 2.5km 約1時間)

新馬場駅

1976年京浜急行線の高架化工事の際に北馬場駅と南馬場駅を統合し、両駅の間地点に造られた駅。

普通電車のみが停車する駅であるにもかかわらずホームが長いのは、統合に際して旧駅の利便を保つため、以前両駅のあった場所に改札口を設置したためである。(インターネット ウィキペディアフリー百科事典より)

荏原神社

京浜急行新馬場駅下車 住所：北品川2-30-28 電話：03-3471-3457

創立は和銅2年(709)本殿は1844年/江戸時代後期の建築。社殿に掲げる「荏原神社」の扁額は三条実美公の筆。平安時代の康平5年(1062)に、源頼義、義家父子が奥州の安倍氏を討とうとした際、府中の大国魂神社と荏原神社に参詣して、品川の海岸で身を清めた逸話が残る。このため大国魂神社では5月の祭りの前に、品川沖の海上に出て潮を汲んで持ち帰り、その水で清めるという慣習がある。

海徳寺

京浜急行新馬場駅下車 住所：南品川1-2-10 電話：03-3471-7901

戦国時代の永徳2年(1522)に、この地に住んでいた鳥海和泉守(とりうみいずみのかみ)という人物が、京都から日増上人(にことぞうしようこん)を迎えて自宅を寺としたことに始まるといわれる。現在の本堂は、江戸時代の中期、寛延4年(1751)に完成したもので、区内でも屈指の古い建物である。

○ホームラン地蔵

・元巨人軍の王貞治選手が新人のころ、心臓病の少年にホームラン王になることを誓った。少年は残念ながら14歳で亡くなったが、王氏は度々少年の墓を訪れたり、ホームラン世界記録を樹立した時にも報告に訪れた。

・バットを抱き、ボールを持った地蔵像が少年の墓である。

街道松の広場 浜松宿の松(南品川1丁目)

東海道29番目の宿場、浜松市の有賀慶吉氏から寄贈された樹齢80年の黒松。有賀氏から「品川宿の松」と命名され、1993年に植樹された。旧東海道品川宿には東海道53次の宿場のうち、7つの宿場から寄贈された街道松が植樹されている。

高村 智恵子の碑

JR大井町駅下車 住所：南品川6-7-30

智恵子が最期に入院したゼームス坂病院があった場所に区民有志の手で建てられた記念碑がある。智恵子の臨終を詠んだ光太郎の「レモン哀歌」が刻まれている。碑の高さは、智恵子の身長と同じ。碑の前には、いつもレモンが供えられている。

品川寺(ほんせんじ)

京浜急行青物横丁駅下車 住所：南品川3-5-17 電話：03-3474-3495

・真言宗醍醐派の別格本山で、平安時代、大同年間(806~10)の開創。江戸時代初期の承応元年(1652)に再興され、京都、醍醐寺の末寺となる。○洋行帰りの鐘 ○江戸六地藏 ○庚申塔(こうしんとう) ○大イチョウ

海雲寺(千躰荒神祭り)

青物横丁駅下車 住所：南品川3-5-21 電話：03-3471-0418

江戸時代から「品川の荒神さん」として人々に親しまれてきた。荒神様は火と水の神、また、台所の神とされる。毎年3月と11月の27日、28日に、台所に祀るお宮を清める護摩供養が行われる。この日は、境内から青物横丁駅まで、名物「釜おこし」等が販売される露店が軒を連ね、大勢の参拝者で大変な賑わいとなる。

旧網元の家

鮫洲駅下車 住所：東大井1-3-22

その昔、東海道は海辺で漁師の町でした。当時の面影を今に伝える唯一の建物

鮫洲八幡神社

京浜急行鮫洲駅下車 住所：東大井1-20-10

創建の年代は明らかではないが、かつての御林漁師町の鎮守で、鮫洲明神、御林明神とも呼ばれる。

本殿は昭和47年(1972)に再建されたもの。本殿の左手には弁天地があり、池の中の島には水神社と弁天社、その他にも巖島神社、稲荷神社などの末社が祀られている。また、鮫洲八幡近くの旧東海道には、現在も釣り船屋が多く見られ、往時の漁師町を偲ばせる。

知っ得 耳寄り情報!

品川寺の洋行帰りの鐘

品川寺の梵鐘は、1887年にパリ万国博覧会に出品されたが、行方不明に。のちにジュネーブで発見され、60余年ぶりに無事帰還した。この縁で品川区とジュネーブ市は友好都市提携を結んでいる。

かっぱまつり

御神面神輿海中渡御(通称かっぱ祭り)。海(天王洲)から拾い上げられたと伝えられる須佐之男命の神面を、神輿につけて海上を渡し、豊漁と豊作を祈る。荏原神社例大祭の最終日、目黒川で船に神輿を乗せ、お台場海浜公園周辺で行われる。神輿担ぎ手の元結が水に濡れて切れ、さんばら髪になった様を観て、誰言うとなく「かっぱ祭り」と呼ばれるようになったという。しながわ観光協会では屋形船で「御神面神輿海中渡御」を見学するイベントを毎年行っている。お問い合わせは 03-5498-5314